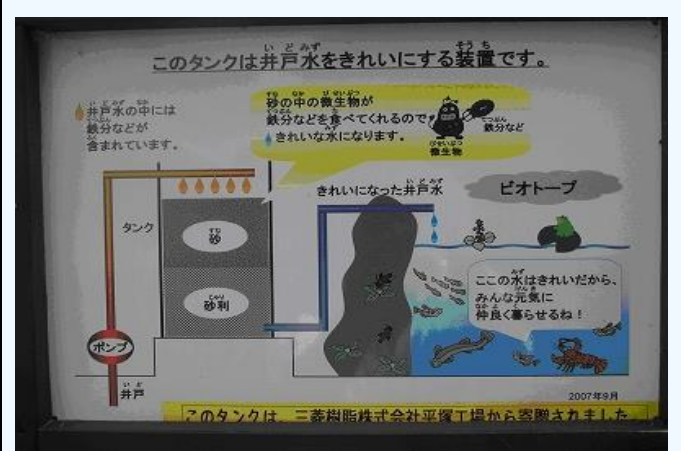


テーマ： 『子どもたちの水や空気や生き物への興味・関心を高める学習環境づくり～自然生態系観察用ビオトープ「松が丘水路学習園」等を活用した理科・環境教育～』

平塚市立 松が丘小学校

Tel. 0463-54-1624

担当者： 飯田 しづ子



■実践内容:

松が丘小学校は、自然生態系観察用ビオトープ「松が丘水路学習園」を設置し、自然との直接的なふれあいを通して、自然に親しみ、理解を深め、自然を大切にする子どもを育てるように努めてきた。しかし、水路学習園が水源としている地下水は、鉄分等の含有量が多いために、水の汚濁(酸化鉄及びそれに付着するバクテリア等のかたまり)がひどかった。そこで、「除鉄・除マンガン装置」(ろ過装置)を設置して水質改善を図りつつ、水路の改修・身近に見られる水生植物(ガマ、オモダカ、コナギ、ホタルイ、セリ、ウリカワ、ジュズ玉等)を移植し、水中・水辺の生き物が成育しやすい環境を整えた。

■実践成果:

水質の改善や水路の汚泥処理等ができたので、ザリガニ、メダカ、フナ等が多数生育するようになった。また、池や水路にトンボの飛翔空間を確保し、また、水生植物を移植して羽化場所を作ったことなどにより、トンボが多く見られるようになり、ヤゴの観察や飼育が可能となった。子どもたちは直接これらの小生物にふれながら学習できるようになり、子どもたちの自然及び環境への興味・関心、さらには理科学習に対する意欲を高めることができた。

■実践ポイント:

自然生態系観察用ビオトープ「松が丘水路学習園」設置のねらいを踏まえつつ、改善方法を明確にし、その解決のための手立てを具体的に打っていくことにより、子どもたちが自然環境に対する理解を深められる学習の場として再生した。